
光と闇が恋をする。

木立久美子

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

光と闇が恋をする。

【Nコード】

N6739C

【作者名】

木立久美子

【あらすじ】

光の国に住まう「暁」と、闇の国に住まう「夜姫」。…彼らは互いに惹かれあいながらも、決して、結ばれることはないのです。

光と闇が恋をする。

夜が暁に恋をする。

あるところに、それはそれは美しいお姫様がおりました。

肌は、日の光など浴びたこともないようなほど真っ白で、
ゆたかに波打った髪はカラスの濡れ羽のように黒々と輝き、
瞳はまるで夜の闇を溶かした宝石のようでした。

お姫様の名は、「よるひめ」。

その通り、「夜姫」と書くのです。

彼女は、闇の国に住まうお姫様でした。

「ねえ、十六夜」

「にゃ」「はい」

「にゃあ」「(なんでしょうか、夜姫さま)」

「どうして、私は、ひとりぼっちなのかしら」

「にゃあ!」「(何をおっしゃるのです、夜姫さま!)」

「…にゃあ」「(…この私が、いるではございませんか)」

「にゃあ。」「(あなたの忠実な僕である、黒猫の十六夜が。)」

「……………」

光と闇が恋をする。

「にゃあ？」（夜姫さま？）

「……そうね」

夜姫は、高い塔の最上に、一人で住んでおりました。

話し相手といえば、黒猫の「いざよい」だけでした。

「いざよい」は「十六夜」と書き、彼女の唯一の側近です。

でも、夜姫は、寂しくはありませんでした。

彼女は闇の国のお姫様ですから、

暗闇に支配されることにも、その中に取り残されることにも、全く恐怖は感じなかったのです。

…ただ、

光を恋しがる心だけは、止めることが出来ないのでした。

「ああ、王子様」

「私はあなたが恋しくてたまらない」

「…光の国の、王子様」

光と闇が恋をする。

夜姫は、隣の国の王子様に恋をしておりました。

王子の名は、「あかつき」。

光の国に住まう彼は、その名の通り「暁」の王子。
つまり、「朝」を司る王子様なのです。

闇の国に住まう夜姫とは、対極に存在するお方。

2人が逢えるのは、朝と夜が入れ替わる、ほんの一瞬。
過ぎ去る刹那に、お互いの姿をかいま見るだけなのです。
言葉すら、ほとんど交わしたことはありません。

「王子様」

悲しくても、涙など流すわけにはいかない、と。

何度も、何度も、目を閉じて自分に言い聞かせました。

夜姫は、自分の立場をちゃんと解っておりました。
諦めなければ、と思っておりました。

所詮は、叶わぬ恋なのですから。

「にゃあ」 (夜姫さま)

「にゃあ」 (泣かないでください、夜姫さま)

「…っ、…」

光と闇が恋をする。

光と闇が恋をする。

あるところに、それはそれは美しいお姫様がおりました。

彼女は、闇の国に住まうお姫様でした。

夜は、朝の訪れを待ち望み、

朝は、夜を光で照らし出します。

でも。

「朝」と「夜」は、決して重なることはないのです。

暁が夜に恋をする。

あるところに、それはそれは麗しい王子様がおりました。

蜂蜜色の肌は、日の光を浴びるとまるで上質の絹のように輝き、
短く切られた黄金色の髪は風にさらさらと揺れ、
瞳は晴れ渡る春空を思わせるかのような、澄んだ青でした。

王子様の名は、「あかつき」。

その通り、「暁」と書くのです。

彼は、光の国に住まう王子様でした。

「姫

「姫

「姫

「どうして、僕らは出逢ったんだろう」

「すれ違うだけの存在なのに」

「お互い、対極に住まう者であるのに」

「どうして」

光と闇が恋をする。

「どうして」

「目を閉じれば、あなたしか見えなくなる」

「姫」

「愛しい姫」

「なぜ、あなたは闇にいるのですか」

暁は、大勢の召使いらに囲まれて、広いお城に住んでおりました。

そのお城はとても美しく、暖かでした。

真っ白な壁は、太陽に照らされると華やかにきらめき、

ゆつたりと広がる中庭は召使いらによって毎日のように整えられて、

日当たりの良い場所には可愛らしい花がいくつも咲いています。

でも、暁はときどき、どうしようもなく寂しくなりました。

暁は光の国の王子様ですから、

身のまわりを世話してくれる召使いも、頼りになる心優しい側近も、

皆、暁のことを大事に思い、いつでも傍にいてくれます。

暁も、そんな皆のことが大好きでした。

…ただ。

光と闇が恋をする。

恋しい姫への想いだけが、どうしようもなく彼を切なくさせるの
でした。

「姫」

「あなたは知らない」

「知るはずがない」

「僕が、こんなに情けない思っていることを」

「僕が、こんなにも悲しい思っていることを」

「姫」

「夜姫」

「僕の愛しい、たった一人の姫君」

「今の僕を見たら」

「きっと、あなたは僕を嫌うのでしょうかね」

暁は、隣の国のお姫様に恋をしておりました。

姫の名は、「よるひめ」。

光と闇が恋をする。

光と闇が恋をする。

闇の国に住まう彼女は、そのとおり「夜姫」と書くのです。つまり、「夜」を司るお姫様。

光の国に住まう暁とは、対極に存在するのです。

2人が逢えるのは、朝と夜が入れ替わる、ほんの一瞬。過ぎ去る刹那に、お互いの姿をかいま見るだけなのです。

言葉すら、ほとんど交わしたことはありません。

「…姫」

どれほど恋しかろうとも、あの人に逢ってはいけない。この想いを、絶対に伝えてはいけない。

暁は、自分の立場をちゃんと解っております。諦めなければ、と思っております。

所詮は、叶わぬ恋なのですから。

「暁さま？」

「暁の王子様？」

「何を、悲しんでいらっしゃるのですか？」

「…なんでもない、よ」

光と闇が恋をする。

夜は、朝の訪れを待ち望み、
朝は、夜を光で照らし出します。

でも。

「朝」と「夜」は、決して重なることはないのです。

光と闇が恋をする。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6739c/>

光と闇が恋をする。

2009年6月27日05時17分発行